



今回のこの欄に登場するのは、あなたかも？
身近なニュース、まちの話題などをお知らせください
市情報政策課広報係 ☎22-1411 (内線431)



▲ジョコさん(中央)と、友人のマストウロさん(左)、アディさん

「初めて切り絵に挑戦しました」

ジョコ スダルマンさん

「ボランティア日本語教室スマイル」が開催した切り絵教室に友達と参加しました。「スマイル」は日本人のボランティアが、彦根とその周辺で暮らす外国人に日本語を教える団体です。
ふだんは日本語をみんなで勉強しているのですが、2月22日には日本人と外国人が楽しく交流しようと、西地区公民館(本町二丁目)で切り絵に挑戦しました。韓国、中国、ベトナムなどから来ている外国人約20人と、日本人約20人が参加しました。
絵柄は、初心者でも簡単にできる、チューリップが用意されていました。絵柄が描かれた紙をミユース・コットンという厚手の黒い紙の上に置き、カッ

ターナイフで絵に沿っていつしよに切り抜いていきます。花びらや葉っぱはすべて切り抜き終わったら、後ろからきれいな色の色紙をあわせて貼ります。そうしてできた絵を台紙に貼ると完成です。シンプルで鮮やかな、チューリップの切り絵ができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。
わたしはインドネシアから研修生として来日し、今はシートベルト工場で働いています。日本語をしゃべれたら、もっと楽しく仕事や生活ができるだろうと、「スマイル」に通っています。来年の10月に帰国しますが、それまでたくさんの人と交流できたら、と思います。

「太陽光でクリーン発電 — 市民共同発電所の取り組み —」

石崎洋一さん(中敷町)

私が太陽光発電に興味を持つようになったのは、今から約30年前、*ローマクラブという団体の「成長の限界」というレポートの中の、「地球の資源には限りがある。」という考えに興味を持ったことがきっかけです。

私たちは、昨年の2月にNPO「燦電会」を立ち上げました。太陽光を活用した太陽光発電を普及させ、地球温暖化を抑制して、未来の子どもたちに豊かな環境を残すためです。会員は20人ほどになりました。また、「燦電会」では環境の保全のため、市民共同発電所の設置を進めています。そして、その第1号として、市内の知的障害者通所授産施設たんぼぼ作業所(賀田山町)に太陽光発電機を設置、3

月1日から発電を始めました。
県の補助や、市民の出資によって設立された、この「たんぼぼ発電所」は、施設の屋根の上に設置された、1枚が約1・2mの大きさの発電パネルから成っています。これにより、年間約5、000kW(h(キロワット・アワー))を発電し、施設で使われる電気の一部を賄うことができます。

太陽光発電は、昼間しか発電できないことや、発電量が天候に左右されるといった難点があるものの、クリーンで無尽蔵の太陽エネルギーを、無料で使えるという大きなメリットがあります。

私たち燦電会は、さらに市民発電所を増やし、クリーンなまちづくりに貢献したいと思っています。

*ローマクラブ 環境問題などの地球的規模の課題が招く、人類の危機を回避する方法を研究する民間組織。1968年に設立され、世界中から科学者や経済学者が参加している。



石崎さん

たんぼぼ作業所の玄関部分の屋根にとりつけられた発電パネル

